

2016年に「18歳選挙権」が導入されたのと同時に、生徒の政治活動は制限され、教師の政治的中立性ばかりが強調されました。一方、学校でこそ「主権者教育」はすべき、という前提で選挙管理委員会が学校に赴いて「選挙に行く」ための模擬投票が実施されました。その直後にあった夏の参議院選挙では、マスコミをはじめ多くの大人たちが、若者の投票率の動向に一喜一憂したのも記憶に新しいところです。

あれから2年の関心も薄れただけに終わって

何より、学校を「当事者」として「主権者」を育てるとい

憲法が変えられよちが生きる社会やためにあるという原

現場において
教師は、今を生きる「当事者」として「民主主義の担い手」として「主権者」を育てる

マスコミが取り上げることも少なくなり、社会全体のように思います。「主権者教育」は単なるブームしまったと言ったらいいすぎでしょうか。

現場において私たち教師は、今の社会を生きとして「民主主義の担い手」として、「主権者」意識が希薄になってはいないで

うとしている今こそ、主権者教育の目的は、自分た地域を作っていく「民主主義の担い手」を育てるに立ち戻って議論を深めたいと考えます。



主権者教育を考える

総研

塩尻総合文化センター

2018 **12.15** **土**
第5回総合研究会

学校づくり・地域づくり ～民主主義の担い手として～

主権者って何だ？

「学校をつくる、地域をつくる」

民主主義の担い手であること

2016年に「18歳選挙権」が導入されました。あれから2年。社会全体の関心も薄れたように思います。何より、学校現場において、稀薄になつて

2016年「18歳選挙権」が導入されました。あれから2年。社会全体の関心も薄れたように思います。何より、学校現場において、稀薄になつて

いいて私たちが教師は、今の社会を生きる「当事者」として、「民主主義の担い手」として「主権者」を育てるとい

はいないでしようか。憲法が変えられようとして、今こそ、主権者教育の目的は、自分たちが生きる社

会や地域を創っていく「民主主義の担い手」を育てるためにある、という原点に立ち戻って議論を深めたいと考えます。

会場 塩尻総合文化センター
 時間 受付9時半～
 開始10時

実践報告①

江原一幸さん(佐久平総合技術高校)

「学校を変える地域を変える生徒会活動」

実践報告②

坂口俊夫さん(小諸高校)

「三者協議会の立ち上げにあたって」

実践報告③

横出加津彦さん(和歌山県立粉河高校)

「和歌山県立粉河高校・KO塾」ほんまもんの学びを地域とつなぐこと」

**教文
 会議**

長野県教育文化会議
 長野市県町593
<http://kyobun-kaigi.sakura.ne.jp/>
 TEL 026-234-2216 FAX026-234-2219
 E-mail kyobun.nagano-h@educas.jp

取組

期日

12月15日(土)

会場

塩尻総合文化センター

時程

9時30分～

受付

9時50分～

議長挨拶・課題提起

10時～

実践報告①

11時30分～

実践報告②

12時15分～

昼食休憩

13時15分～14時45分

実践報告③

15時10分～15時30分

総括討論

はじめに
2016年に「18歳選挙権」が導入されたのと同時に、生徒の政治活動は制限され、教師の政治的中立性が強調されました。一方、学校でこそ「主権者教育」はすべき、という前提で選挙管理委員会が学校に赴いて「選挙にいく」ための模擬投票が実施されました。その直後にあった夏の参議院選挙では、マスコミをはじめ多くの大人たちが、若者の投票率の動向に一喜一憂したのも記憶に新しいところですが、あれから2年。マスコミが取り上げることもしなくなり、社会全体の関心も薄れたように思います。「主権者教育」は単なるブームだけに終わってしまったと言ったらいいすぎでしょうか。

何より、学校現場において私たち教師は、今の社会を生きる「当事者」として、「民主主義の担い手」として、「主権者」を育てるという意識が、希薄になってはいないでしょうか。

憲法が変わられようとしている今こそ、主権者教育の目的は、自分たちが生きる社会や地域を創っていく「民主主義の担い手」を育てるためにある、という原点に立ち戻って議論を深めたいと考えます。

教文 会議

長野県教育文化会議

長野市県町593

<http://kyobun-kaigi.sakura.ne.jp/>

TEL 026-234-2216 FAX026-234-2219

E-mail kyobun.nagano-h@educas.jp

実践報告①

江原一幸さん(佐久平総合技術高校)

「学校を変える 地域を変える」

生徒会活動

地域であまり評判がよいとは言えなかった学校が、地域と協力して地域づくりを進める中で生徒が変わり、学校も大きく変わっていったという実践です。生徒と一緒に制作した「原発問題」のビデオも含めて報告していただきます。

実践報告②

坂口俊夫さん(小諸高校)

「三者協議会の立ち上げにあたって」

小諸高校でも新たに「三者協議会」が立ち上がりました。そのいきさつを含めてお話を聞きます。

実践報告③

横出加津彦さん(和歌山県立粉河高校)

「和歌山県立粉河高校・KOKO塾」

「ほんまもんの学びを地域とともに」

17年も前から周囲の大人たちと協同して学び合い、地域づくりを進めている和歌山県粉河高校「KOKO塾」の実践をわざわざ遠方より来ていただいたのご報告です。